

木造地藏菩薩立像 1 軀(施行院)

木造地藏菩薩立像

もくぞうじぞうぼさつりゅうぞう

指定有形文化財

美術工芸品[彫刻]

所有者

宗教法人 施行院(せぎょういん)

所在地

大阪市天王寺区悲田院町

紹介

法量：像高 74.6cm



四天王寺の境外支院のひとつである施行院は『大阪府全志』によれば 593 年の創建、南北朝時代に一度焼失し豊臣時代に一字の堂が建立され、寛文 10 年(1670)に再興されたという。本堂にまつられる本像は、頭体を通して一木造の彫眼像で、内割を持たない古様な構造を示す。体奥が浅く細身の体軀と素朴な彫技が特徴で、穏やかで起伏の少ない衣文は定朝様の影響をうかがわせる。腹前に裙の結び紐をあらわす。現状では古色を呈するが、表面に焼損した痕跡が見られる。鼻先と口唇に後世の修復の手が入るが、全体として造像当初の様相をとどめる。製作年代は平安時代後期、12 世紀と考えられる。大阪の貴重な平安仏のひとつである。